

32 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (63歳・内科)

人の情念と在宅医療



これは最近の話です。在宅医療の依頼が突然あったので訪問してみると、そこにいたのは食事があまりできず脱水状態で寝たきり状態にある87歳の男性でした。診察を始め、お話を聞いてみると「どんなことがあっても入院はしたくない、自宅で治療をして欲しい」と絞り出すような小さな声で話されました。理由を尋ねると、同居している80歳代の女性のことが心配で離れたくなく、施設入居をしないで現在のアパートで人生を終えたいという強い意志をお持ちでした。

しばらく毎日点滴をしたところ、一時は、介護をしながらではありますが食卓まで移動し、座れる状態まで回復しました。しかし、最期は酸素療法をしながらの看取りとなったのです。その男

性が先立つ少し前から同居の女性も寝たきり傾向となり、在宅患者になっていました。

お二人は十数年前に、あるサークルで出会い意気投合した後、一緒に生活するようになったようです。彼が先立ち、独りになってしまった彼女は、憂い、悲しみに明け暮れ、「胸が苦しい」とか「しんどい」とか頻回の往診を呼ぶようになりました。到着時間が少しでも遅くなるとすねて、「死にたい、お父さんのもとに早く行きたい」とだだをこねます。食欲も低下し、脱水傾向もあるので施設入所を検討するよう勧めたりもしましたが、「このアパートでの思い出を大切にしたい」と、動く気配はまったく無いのでした。帰りがけに私が仏壇に手を合わせ、「彼女は元気ですよ」と彼に報

告すると、「拜んでくれてありがとう」といつも言ってくれました。その言葉を聞くと、私の心にはジーンと温かいものが沸き上がり、在宅医療を続けてよかったなあと思うのでした。

医者冥利に尽きるとはこのことでしょうか。

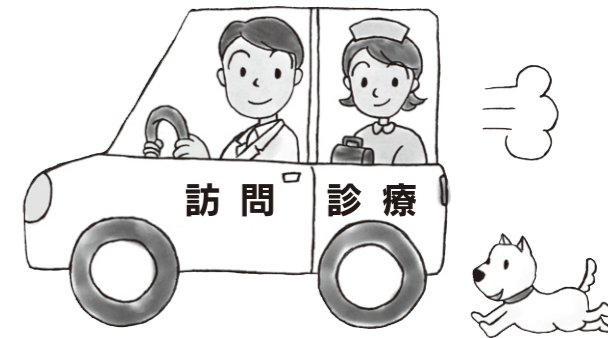
人生にはドラマがあります。最近つくづくそう思います。そして、漢方医学では、人間は七情『憂、悲、恐、喜、怒、思、驚』があるとされています。内面的な心(魂)の叫びを聞き、癒やすことは今後ますます私たちに求められていくことでしょう。

西洋医学の見地では全人的な痛み(Total Pain)

- ①肉体的な痛み (physical pain) ②心理的な痛み (psychological pain)
- ③社会的な痛み (social pain) ④文化的な痛み (cultural pain)
- ⑤霊魂的な痛み (spiritual pain)

〈参照〉介護支援専門員基本テキスト 第3巻
高齢者保健医療の基礎知識

「お医者さんが来てくれる」
質の高い在宅医療・看護・介護
を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>